

薬剤師需給の将来動向に関する検討会構成員名簿

平成20年6月12日現在

◎	いむら 井村	のぶまさ 伸正	日本薬剤師研修センター理事長
	おだ 小田	ひょうま 兵馬	日本チェーンドラッグストア協会副会長
	かみや 神谷	あきら 晃	山口大学医学部附属病院副病院長
	きまた 木俣	ひろぶみ 博文	日本医薬品卸業連合会理事
	こだま 児玉	たかし 孝	日本薬剤師会会長
	こばやし 小林	もとまさ 資正	大阪大学大学院薬学研究科長
	こやま 小山	のりお 紀夫	薬事日報社取締役編集局長
	たかやなぎ 高柳	もとあき 元明	東北薬科大学理事長・学長
	ながの 長野	あきら 明	第一三共常務執行役員信頼性保証本部長
	ふじた 藤田	けいぞう 敬三	大阪府健康福祉部薬務課長
	ほりうち 堀内	りゅうや 龍也	日本病院薬剤師会会長
	もちづき 望月	まさたか 正隆	東京理科大学薬学部教授

(◎：座長)

(五十音順、敬称略)

薬剤師需給の予測について（粗い試算）

平成19年6月29日
薬剤師需給の将来動向に関する検討会

1. 試算の性格

- 薬剤師需給の将来動向に関する検討会（平成19年5月設置）における議論に活用するため、粗い試算を行ったもの。
- 手法は、平成14年の薬剤師問題検討会における「薬剤師需給予測」を基本的に踏襲。
- 引き続き、検討会においてより詳細な需給予測を行う予定。

2. 試算方法

○ 供給側

(1) 総薬剤師数
薬剤師国家試験合格者の年齢を23歳と仮定し、便宜上、70歳までの薬剤師数を総薬剤師数とした。具体的には、1958年から2005年までの48年間の各年薬剤師国家試験合格者数を、各年齢の各年における死亡率により補正し、合算。

(2) 総薬剤師数の増減要因
① 増加分（新卒合格者数）
直近10年間の新卒合格者の国家試験合格率の平均をもとに、相対する定員数に乗じることにより増加分を算出し、総薬剤師数に加算。
なお、合格率については、平均合格率をもとに上方10ポイント、下方30ポイントの幅をもって試算。
② 減少分（離職・退職等）
総薬剤師数から70歳を超える薬剤師数を減ずるとともに、70歳までの薬剤師数は、直近の各年齢死亡率により補正。

○ 需要側（業務種別の薬剤師数）

直近10年間の薬剤師数の平均増減率を算出し、もとななる従事者数に乗じることにより、2年毎に試算。平均増減率は、試算年からみた直近10年間の平均増減率とし、試算した増減率も加えた形で各年毎に試算。
ただし、薬局については、直近10年間のデータを対象に、分業率1ポイントあたりの増加薬剤師数を算出したうえで、直近4年間（届出薬剤師数2回分）の分業率の平均増加分をもとに試算。

3. 試算の結果

	平成17年(2005年)	平成23年(2011年)	平成26年(2014年)	平成30年(2018年)	平成40年(2028年)
総薬剤師数					
総薬剤師数①(新卒+10P)		331 156	353 696	380 682	431 741
総薬剤師数②(新卒・平均)		327 314	346 330	368 512	407 561
総薬剤師数③(新卒-10P)		323 471	338 963	356 341	383 380
総薬剤師数④(新卒-20P)	313 530	319 629	331 597	344 171	359 200
総薬剤師数⑤(新卒-30P)		315 786	324 230	332 000	335 019
総薬剤師数⑥(総数・平均)		334 600	354 976	383 012	437 342
薬剤師従事者数					
薬局	116 761	134 016	141 041	141 041	141 041
病院・診療所	48 363	48 290	48 478	48 547	48 817
大学	8 421	11 120	12 906	15 617	25 343
医薬品製造業・製造販売業	30 228	31 255	31 878	32 667	34 798
医薬品販売業	15 513	15 267	15 058	14 852	14 261
行政	5 918	6 241	6 431	6 673	7 328
その他業務	4 952	5 392	5 677	6 040	7 116
無職の者	12 733	11 788	11 537	11 050	10 027
需要①小計(無職者を含まない)	230 156	251 581	261 469	265 437	278 704
需要②小計(無職者を含む)	242 889	263 369	273 006	276 487	288 731

薬剤師需給に関する粗い試算について

